

# 強者の戦略

## 【はじめに】

今回は、直前対策として「ビジネス基礎」の予想問題を出題しましたが、受験生のみなさん、いかがだったでしょう。

外国人労働者については、政治・経済の授業で習っているでしょう。今回の問題は知識ではなく、自分の考えをいかにまとめるかを問いました。過去問でも、考えを述べる問題が出題されているので、それに沿って出題しました。

外国人労働者といえば、EPA（経済連携協定）によって、インドネシア、フィリピン、ベトナムとの間で、看護師・介護福祉士として外国人労働者の受け入れをしていることは知っているでしょう。また、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）により、人の移動も自由になることで、多くの外国人労働者が移動してくることも予想されます。

そこで、外国人労働者が日本で働くにあたり、どのような問題があるか、気づくことが大切です。今回は考えを問うているので、明確な解答は存在しません。しかし、問題点はある程度気づくはずなので、そこを踏まえて書いていくようにすれば、合格答案になるでしょう。

それでは、解答例にいけます。

## 【解答例】

外国人労働者が日本で働くとき、言葉の壁が大きな問題になる。いくら日本語を勉強したことがあるとしても、実際に会話をするとき、通じないことも考えられる。そこで、外国人労働者に対して、日本語教育を無償で受けられるような制度が必要だと思う。また、国が企業に通訳を派遣して、スムーズに会話ができるようにすることも必要だと思う。さらに、職場や住居地域に、同じ国籍の外国人がいることも必要だと思う。周りに同じ国籍の外国人がおらず、1人で働いていたり住んでいたりすると、精神的な苦痛や孤独を感じて、出身国に戻りたいと考えてしまう。その結果、仕事を早期に辞めることにな

ってしまう。これに加えて、職場の日本人が外国人労働者の文化を理解することが求められる。宗教はもちろんのこと、食文化も気をつける必要がある。また、就業中に宗教的儀式を行うこともありえるので、日本人労働者に研修などを行い周知・徹底させる必要がある。（398字）

## 【解説】

バブル経済崩壊後の1989年、出入国管理法が改正され、日系ブラジル人の受け入れが行われた。この人たちは、専門職や技能職ではなく、期間労働者として単純労働に従事していた。その後、日本は少子高齢化が進み、2000年代後半になると、インドネシアやフィリピンとの間でEPA（経済連携協定）が発効し、看護師・介護福祉士として外国人労働者を受け入れた。

しかし、日本に来て研修を受けていたインドネシアやフィリピンの人たちの中から、言葉の壁や寂しさから帰国する者もいた。

今後、日本はますます少子高齢化が進展し、労働者不足が深刻になる。特に、医療・介護分野における不足は現在でも懸念されている。

今回の問題は、そのことを踏まえて出題した。この問いに模範解答はない。また、それを求めているのでもない。現代日本が抱える問題を、受験生のみなさんに意識してもらうことである。この問題を機に、幅広い視点を持ち、自分の考えが言えるようになればと思う。

今回で今年度最後になるが、どのような問題が出題されても、慌てることなく冷静に対応することが大切。周りの受験生も同じ問題を解くのため、周りも同じ気持ちである。そう思って、国公立二次試験に挑むように。

最後に、みなさんが笑顔で春を迎えることを、心より祈っている。